

# 登別市事業仕分け調書

平成 22 年度作成

<b>番号</b>	A - 4 - 1	<b>事務事業名</b>	市民生涯学習推進講座（ときめき大学）
-----------	-----------	--------------	--------------------

<b>部 名</b>	教育部	<b>グループ名</b>	社会教育G
------------	-----	--------------	-------

<b>事務事業コード</b>	51111001	<b>事業開始年度</b>	昭和 55 年度	<b>事業終了予定年度</b>	平成 22 年度
----------------	----------	---------------	----------	-----------------	----------

<b>関連事務事業名</b>	市民生涯学習推進講座（婦人短期大学）
----------------	--------------------

<b>事務事業の実施根拠</b> (根拠となる法令・条例・規則・要綱等)	<b>種別</b>	5 市単独で実施している事務事業
	<b>法令等名</b>	
	<b>法令等の内容</b>	

<b>実施方法</b>	市が直接実施
	民間等へ業務委託または指定管理 (委託先: )
	補助金 (補助先: )

## 事務事業の目的と内容

<b>対象</b>	(何を対象にまたは誰を対象にした事務事業なのか。地域や年齢等が限定される場合は詳細に記入) 60歳以上の市民
<b>事業の目的</b>	(何のために事業を実施したのか。または何のために事業を実施しているのか) 生きがいのある人生観の確立と豊富な経験のもとに、多彩な能力を社会に生かすとともに、時代のニーズに応じた教養を身に付ける。
<b>事業の内容</b>	(事業の内容【手段・手法・活動など】) 1年生～4年生の4学年制とし、卒業したものが継続して受講する場合は、聴講生とする。 教養コース ・今日的課題、社会事情、生活向上、充実等についての学習会 専修課程コース(グループ学習会) ・新聞グループ ・ハーモニカグループ ・せんべい焼きグループ ・すこやか(レクリエーション)グループ ・フラダンスグループ ・わらべ歌グループ 選択コース(希望者が選択コースへ参加) くらしの賢者コース(生活・文化)、のぼりべつ物知りコース ・ (郷土・歴史・文化) はつらつ元気コース(健康)

## 事業費

区 分		単位	20年度 決算額	21年度 決算見込額	22年度 予算額
<b>事業の財源内訳</b>	国庫支出金	千円			
	道支出金	千円			
	その他	千円	844	740	920
	地方債	千円			
	一般財源	千円	568	660	420
<b>合 計</b>			<b>1,412</b>	<b>1,400</b>	<b>1,340</b>
<b>上記事業を実施するために必要となる人件費(概算)</b>	職 員	千円	4,295	4,064	4,329
	嘱 託 員	千円	0	0	0
	臨時職員	千円	0	0	0
	<b>合 計</b>		<b>4,295</b>	<b>4,064</b>	<b>4,329</b>
<b>総合計(合計 + 合計)</b>		千円	<b>5,707</b>	<b>5,464</b>	<b>5,669</b>

<b>事業費内訳</b>	(22年度予算ベースの事業費の具体的な内訳【節名ごと】)			
	報償費			
	・ 学習会講師謝礼	@20,000円 × 3回	= 60,000円	
	・ グループ学習会	@ 2,500円 × 12回 × 2グループ	= 60,000円	
	・ 見学旅行看護師謝礼金	@10,000円 × 2人	= 20,000円	
	消耗品費(運営消耗品費)		= 33,000円	
	使用料及び賃借料			
	・ 大学生送迎用バス借上げ料	@ 37,000円 × 3台 × 5回 × 1.05	= 582,750円	
	・ 合同見学旅行バス借上げ料	@160,000円 × 3台	= 480,000円	
	・ 合同見学旅行入園料	@ 800円 × 130人	= 104,000円	合計 1,339,750円

<b>番号</b>	A - 4 - 1	<b>事務事業名</b>	市民生涯学習推進講座（ときめき大学）
-----------	-----------	--------------	--------------------

<b>部 名</b>	教育部	<b>グループ名</b>	社会教育G
------------	-----	--------------	-------

活動実績				
活動指標名 （事業のこれまでの実績【数量・回数・人員等】）	単位	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度（見込み）
受講者数（年間）	人	1,528	1,129	1,000
学習回数（年間）	回	23	22	23

成果	
（事務事業を実施したことでのどのような成果が得られたのか。現状の成果）	
事業の成果	<p>生涯学習の観点に立ち、生きがいのある人生観を自ら確立するため、時代の進歩に応じた新しい知識と教養を身に付けるとともに、高齢者相互の親睦を図り、学習機会を得ることにより、多彩な能力を地域社会で役立てているため、事業実施による効果が表れている。</p>

担当部による評価	
（事業の今後の方向性、課題等）	
事業の自己評価	<p>ときめき大学は、当初の老人大学から名称変更や婦人短期大学との合同入学式・卒業式の実施、受益者負担の導入など時代に即した見直しを行いながら実施してきたが、ここ数年は新入生の減少が続いている。</p> <p>最近、団塊の世代の大量退職の影響などから生涯学習に対するニーズも変化し、学びたい分野を自由に選択して学習をする傾向が見られ、その分野も多様化している。</p> <p>このため、これまで大学方式で進めてきた学習提供方式のあり方などについて、婦人短期大学との統合を含めた抜本的な見直しが必要な時期と考えており、NPOや企業との連携、地域の大学との連携も視野に入れ、道民力レッジなどを参考にした新たな取り組みを検討している。</p>

他の自治体の状況	
（他の自治体での類似事業の状況）	
比較参考値	<p><b>室蘭市</b> 【室蘭市男女共生セミナー（前期3回・後期3回実施）】</p> <p>対 象 市内及び近隣在住の方</p> <p>内容と成果 講演・パネルディスカッション形式。後期は、セミナーボランティアによる企画・運営。男女平等の視点に立ったセミナーの実施により、男女共同参画社会への意識の高揚が図られた。</p> <p>課 題 等 男女平等参画は女性だけの問題ではなく、男性の問題でもあるという意識の醸成が必要なため、セミナーにも創意工夫が求められている。参加者の固定化が目立つ。</p> <p><b>伊達市</b> 【伊達市長生（ちょうせい）大学】</p> <p>対 象 市内居住の概ね63歳以上の方</p> <p>内 容 課程は、学士4年、大学院として修士課程2年、博士課程2年とする。大学院修了者は研究生。大学の授業は年21日とする。平成21年度においては、男86名 女166名 計252名の在籍者数となっている。</p> <p>課 題 等 特に問題及び課題等はない。</p>

特記事項	
（事業の変遷）	
事業の沿革等	<p>本大学は、昭和55年に「登別市老人大学」としてスタートし、生涯学習に対応した多様な学習機会の充実を図るため設置され、昭和58年度には第1回目として1,020名の受講生が卒業する。その後、平成13年度まで老人大学と老人大学院として実施していたが、平成14年度に「ときめき大学」へ名称変更するとともに大学院を廃止し、それまでは無料だった受講料を受益者負担の原則に基づき、平成19年4月から「受講負担金に関する要綱」を定め有料とし、現在に至っている。</p> <p>【年度別大学受講生の状況】別紙のとおり</p>

# 登別市事業仕分け調書

平成 22 年度作成

番号	A - 4 - 2	事務事業名	市民生涯学習推進講座（婦人短期大学）
----	-----------	-------	--------------------

部 名	教育部	グループ名	社会教育G
-----	-----	-------	-------

事務事業コード	51111002	事業開始年度	昭和 56 年度	事業終了予定年度	平成 22 年度
---------	----------	--------	----------	----------	----------

関連事務事業名	市民生涯学習推進講座（婦人短期大学）
---------	--------------------

事務事業の実施根拠 (根拠となる法令・条例・規則・要綱等)	種別	5 市単独で実施している事務事業
	法令等名	
	法令等の内容	

実施方法	市が直接実施
	民間等へ業務委託または指定管理 (委託先: )
	補助金 (補助先: )

## 事務事業の目的と内容

対象	(何を対象にまたは誰を対象にした事務事業なのか。地域や年齢等が限定される場合は詳細に記入) 成人女性
事業の目的	(何のために事業を実施したのか。または何のために事業を実施しているのか) 成人女性の生きがいのある人生観の確立と、時代のニーズに応じた教養を身に付け、地域社会に寄与する。
事業の内容	(事業の内容【手段・手法・活動など】) 1年生、2年生の2学年制とし、卒業したものが継続して受講する場合は、聴講生とする。 今日的課題、社会事情等に関する学習 教養コース（必修） 選択コース（自由選択、うち1コース必修）から関心のある分野のものを選んで学習する。 くらしの賢者コース（生活・文化）、のぼりべつ物知りコース（郷土） はつらつ元気コース（健康）

## 事業費

区 分			単位	20年度 決算額	21年度 決算見込額	22年度 予算額	
事業の 財源 内訳	国庫支出金	名称	千円				
	道支出金	名称	千円				
	その他	名称	千円	492	370	450	
	地方債			千円		129	
	一般財源			千円	79		140
	合 計				571	499	590
上記事業を実施するために 必要となる人件費（概算）	職 員	千円	2,794	2,665	2,793		
	嘱 託 員	千円	0	0	0		
	臨時職員	千円	0	0	0		
	合 計			2,794	2,665	2,793	
総合計（合計 + 合計）			千円	3,365	3,164	3,383	

事業費内訳	(22年度予算ベースの事業費の具体的な内訳【節名ごと】)
	報償費
	・ 選択コース講師謝礼 (@10,000円×5回) + (5,000円×10回) = 100,000円
	消耗品費（運営消耗品費） = 75,000円
	使用料及び賃借料
	・ 合同見学旅行バス借上げ料 @160,000円×2台 = 320,000円
	・ 選択コースバス借上げ料 @ 37,000円×1台×1.05 = 38,850円
	・ 合同見学旅行入園料 @ 800円×70人 = 56,000円
	合計 589,850円

番号	A - 4 - 2	事務事業名	市民生涯学習推進講座（婦人短期大学）
----	-----------	-------	--------------------

部 名	教育部	グループ名	社会教育G
-----	-----	-------	-------

活動実績				
活動指標名 (事業のこれまでの実績【数量・回数・人員等】)	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(見込み)
受講者数(年間)	人	1,087	589	500
学習回数(年間)	回	23	22	22

成果	
事業の成果	(事務事業を実施したことでのどのような成果が得られたのか。現状の成果)
	<p>生涯学習の観点に立ち、成人女性の生きがいのある人生観を自ら確立するため、時代の進歩に応じた新しい知識と教養を身に付けるとともに、受講者相互の親睦を図り、学習機会を得ることにより、多彩な能力を地域社会で役立てている。また、同短大同窓会の多方面でのボランティア・協力及び支援等の実施により、より幅広く地域社会へ寄与していることから、事業実施による効果が表れている。</p>

担当部による評価	
事業の自己評価	(事業の今後の方向性、課題等)
	<p>婦人短期大学は、ときめき大学との合同入学式・卒業式の実施、受益者負担の導入など時代に即した見直しを行いながら実施してきたが、ここ数年は新生生の減少が続いている。</p> <p>最近、団塊の世代の大量退職の影響などから生涯学習に対するニーズも変化し、学びたい分野を自由に選択して学習をする傾向が見られ、その分野も多様化している。</p> <p>このため、これまで大学方式で進めてきた学習提供方式のあり方などについて、ときめき大学との統合を含めた抜本的な見直しが必要な時期と考えており、NPOや企業との連携、地域の大学との連携も視野に入れ、道民カレッジなどを参考にした新たな取り組みを検討している。</p>

他の自治体の状況	
比較参考値	(他の自治体での類似事業の状況)
	<p><b>室蘭市</b> 【室蘭市男女共生セミナー(前期3回・後期3回実施)】</p> <p>対 象 市内及び近隣在住の方</p> <p>内容と成果 講演・パネルディスカッション形式。後期は、セミナーボランティアによる企画・運営。男女平等の視点に立ったセミナーの実施により、男女共同参画社会への意識の高揚が図られた。</p> <p>課 題 等 男女平等参画は女性だけの問題ではなく、男性の問題でもあるという意識の醸成が必要なため、セミナーにも創意工夫が求められている。参加者の固定化が目立つ。</p> <p><b>伊達市</b> 【伊達市長生(ちょうせい)大学】</p> <p>対 象 市内居住の概ね63歳以上の方</p> <p>内 容 課程は、学士4年、大学院として修士課程2年、博士課程2年とする。大学院修了者は研究生。大学の授業は年21日とする。平成21年度においては、男86名 女166名 計252名の在籍者数となっている。</p> <p>課 題 等 特に問題及び課題等はない。</p>

特記事項	
事業の沿革等	(事業の変遷)
	<p>本短期大学は、昭和56年度から成人女性への生涯学習の意欲啓発と学習機会の提供と、学習者相互の交流を図り地域社会に貢献する女性の活躍を期待することを目的に設置され、ピーク時である昭和63年度には306名の受講生が卒業している。昭和61年度には、同短期大学の同窓会を設立し、多方面でのボランティア・協力及び支援等実施し、地域社会に寄与する。(本年度、設立25周年。)平成19年4月からそれまで無料だった受講料を受益者負担の原則に基づき、ときめき大学と同様に「受講負担金に関する要綱」を定め有料とし、運営に関しても同年から「ときめき大学」とともに行い、現在に至っている。</p> <p>【婦人短期大学受講人員状況】別紙のとおり</p>